

農作物技術情報 第1号 野菜

発行日 令和6年 3月21日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 排水対策をしっかりと講じるとともに、計画的に圃場の準備を進めましょう。
- ◆ 計画的な播種・育苗で、適期作業に努めましょう。
- ◆ 育苗中の苗は温度管理を徹底し、低温・高温障害の発生、徒長を防ぎましょう。
- ◆ 定植前後の地温確保、保温管理により活着の促進を図りましょう。

1 圃場準備

圃場周りに排水溝を作るなど、排水対策を実施し、土壌が早く乾くようにします。また、土壌病害対策で土壌消毒や pH 改良などを行う場合は、早めに圃場の準備を行い、計画的に作業を進めます。

(1) ハウス

- ・ハウスのビニールや保温資材（トンネルビニール、内張ビニールなど）に、穴や破れがないか確認し、ある場合は補修や交換を行いましょ。
- ・かん水設備の準備と稼働を確認し、修理や交換が必要な場合は、早めに行いましょう。
- ・定植に向け、適切な土壌水分を確保しておきましょう。

(2) 露地

- ・マルチを利用する品目では、適湿時にマルチを張って地温を高め、出芽や活着を促進させます。
- ・水田転換畑では、額縁明きょを設置し、排水路に確実に接続出来ているか確認し、表面水の速やかな排出が出来るよう圃場を準備します。また、暗きょからの排水状況を確認します。

2 果菜類の育苗・定植

(1) 共通

- ・育苗中は、生育ステージに応じた温度管理に努めます。また、高温と葉の重なり合いにより苗が軟弱徒長となるので、適宜苗のずらしを行って受光態勢を改善し、徒長を防ぎます。
- ・果菜類の苗は、定植時には既に花芽分化が進んでいます（表1）。このため、定植時の低温や活着の遅れは花芽の成長やその後の果実品質にも影響するので、適温・適期での定植に努めます。

表1 主要果菜品目の生育ステージと花芽分化

品目	生育ステージ	花芽分化
きゅうり	本葉3枚時	15節まで分化
トマト	本葉8枚時	3段花房まで分化
ピーマン	本葉13枚時	第5次まで分化

また、病害虫が発生した苗を定植すると早期から被害が発生し、防除困難になる場合があります。育苗中は温度・湿度の適正管理や雑草防除、病害虫の発生状況に応じた薬剤散布を実施して、本畑への持込みを防ぎます。

- ・苗のスムーズな活着を促すために、定植2週間前にはマルチを張り、地温を確保します。

(2) ハウスきゅうり

- ・3月下旬～4月上旬の定植では、保温または補助暖房が必要です。地温の上昇が期待できるマルチの利用、内張りカーテンやトンネル被覆を実施するなど、地温確保と保温に努めます。

- ・本葉 3～3.5 枚のやや若苗を定植します。定植 5～6 日前から夜温を 15℃程度とし、順次苗のずらしを行うとともに、かん水を控えて徒長を防ぎます。
- ・定植後は、根をしっかり張らせるために主茎長 30cm（または 5 節）までの雌花と側枝を除去します。草勢が弱い時は除去する節位を上げて草勢を回復させ、しっかり根を張らせます。活着後は湿度をやや高めに管理し、側枝の発生を促します。

(3) 雨よけトマト

- ・育苗期に極端な低温に遭うと、低段花房にチャック果、窓あき果などの障害果が発生するので、夜温は 10℃以下にならないよう保温が必要です。補助的に、育苗期のカルシウム剤の葉面散布も発生軽減に有効です。
- ・苗の生長に伴い、順次鉢のずらしを行って徒長苗の防止、葉かび病等の発病防止に努めます。
- ・定植は、1 段花房が 1～2 花咲いた頃の苗をやや浅植えしますが、草勢が弱い品種はやや早植えとします。活着を促進するためにマルチ利用に加えてトンネル被覆による保温、または補助暖房の準備を行い、地温 15℃以上を確保します。

(4) ハウスピーマン

- ・育苗ハウス内は、定植 20 日前頃から徐々に夜温を下げ、順化します。
- ・定植 5 日前には 16℃程度まで下げ、かん水も控えめにします。肥料切れの兆候が見られる場合は、液肥を施用します。
- ・定植時に地温 18℃以上を確保できるようにマルチを設置し、定植後はトンネル被覆で保温するとともに、低温時に備え補助暖房の準備をします。また、定植苗が乾かないよう 20～30℃程度のぬるま湯を株元に手かん水し、活着を確認した後はかん水チューブによるかん水に切り替えます。

3 葉茎菜類の播種・育苗・定植

(1) 共通

- ・育苗期の温度管理を適切に行い、苗を徒長させないように管理します。日中の高温、育苗培土の乾燥に注意し、葉色が淡い場合は、かん水を兼ねて液肥を希釈して施用します。
- ・育苗後半は外気に当て、外の環境に慣らす順化を行います。

(2) キャベツ・レタス

- ・定植適期の目安は、キャベツで本葉 2.5～3.5 枚、レタスで 2.5～3 枚程度です。
- ・キャベツ、レタスとも低温には比較的強いですが、定植後、根が活着する前に強い低温にあると枯死する場合がありますので、べたがけ資材（表 2）を使い、低温、降霜、強風の被害を防ぎます。



写真 1 レタスのべたがけ被覆

表 2 主なべたがけ資材とその特性

種類	素材	商品名の例	耐候性	強度	資材面の結露	透光率	耐用年数
長繊維不織布	ポリプロピレン	パオパオ 90	△	△	有	90%	1～2年
	ポリエステル	パスライト	○	△	有	90%	1～2年
割繊維不織布	ポリエチレン	ワリフ(白)	△	○	少	95%	5年
	ポリビニルアルコール	ベタロン	◎	◎	極少	93%	5～7年

引用：「施設園芸・植物工場ハンドブック」等

(3) ねぎ

- ・育苗日数は、セル成型育苗やチェーンポット育苗で 50～60 日間が目安です。

- ・収穫調整の労力を勘案し、計画的に播種・定植を行います。
- ・定植圃場の植え溝は、管理機等により深さ 15～20cm 程度で作溝します。土壌水分が多い時の作溝や定植は、根の活着不良や欠株の原因になるので、圃場の排水対策を実施し、地表面が乾いて白くなるなど、適湿時を選んで作業します。

(4) 雨よけほうれんそう

- ・ハウス内に積もった雪の融雪水だけでは、水分不足や生育ムラを生じる可能性があるため、かん水は 1 作目でも十分に行います。
- ・低温時は、播種直後にべたがけ資材を被覆することにより出芽揃いが良くなります。ただし、長期間の被覆は徒長の原因になるので、出芽揃い後に除去します。
- ・春季はハウレンソウケナガコナダニが発生しやすいので、未熟な堆肥・有機物（モミガラ、わら等）、有機質肥料・資材の施用を控える、生育中のかん水を行う、被害株を圃場外に持ち出して処分する等の対策を行います。また、前年に被害が多発したハウスでは、播種～本葉 2 葉期までの土壌処理剤と、その後の茎葉処理剤との併用による防除を行います。

4 肥料コスト低減に向けて

令和 4 年に急騰した肥料価格はその後低下傾向にありますが、依然として高止まりが続いています。このため、土壌診断に基づく適正施肥や、たい肥などの有機物の活用、施肥量低減技術の導入、肥料銘柄の見直しや調達方式の改善等により、コスト低減に努めましょう。

岩手県では、肥料コスト低減に向け、下記のマニュアルを発行し、岩手県ホームページに掲載しています。是非一度、お手持ちのパソコンやスマートフォンから確認してください。

岩手県肥料コスト低減対策マニュアル（令和 4 年 1 月）

https://www.pref.iwate.jp/res/projects/default_project/page/001/049/686/hiryokoutoumanyuaru0406.pdf

次号は 4 月 18 日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。農業普及技術課農業革新支援担当は、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。